
概要

組合員の減少や役員の担い手不足が進み、存在意義そのものが問われる職員労働組合。再度組合を盛り上げるために、着目したのが、通勤や家事の合間など日常に自然と溶け込み、耳だけで気軽に楽しめる「ラジオ」です。情報発信だけでなく、組合への共感や参加意識を育み、組合員・職員・住民をつなぐ新しいコミュニケーションの可能性を考察します。

挑戦する文化を組合から広げたい — 組合ラジオから始まる新たな一歩 —

福岡県本部／自治労・篠栗町職員労働組合

1 組合の存在意義が問われる時代

(1) 組合員減少と役員の担い手不足

近年、組合員数の減少や役員の担い手不足が進み、組合活動の継続そのものが課題となっている。本組合でも役員の立候補者が現れず、前任者からの指名によって役員を選出する状況が続いていた。また、組合加入率も低下傾向にあり、「組合は何をしているのか分からない」「活動が身近に感じられない」という声も少なくなかった。

(2) 組合活動への関心低下

役員手当の減額や活動縮小などを背景に、組合に対する期待や関心は薄れつつあった。一方で、若手職員には新しい発想や挑戦したいという思いがあり、その力を十分に生かせていない現状があった。

2 挑戦する組合への第一歩

(1) まずは執行委員長自身が挑戦する

組合を変えるためには、まず執行委員長自身が挑戦する姿勢を示す必要があると考えた。そのため、就任あいさつでは演説だけではなく音楽を取り入れるなど、従来にはない方法で「挑戦する組合」というメッセージを発信した。

(2) 組合のビジョンを発信する

組合は職場をより良くするための「挑戦の場」とであるという考えを動画などで継続的に発信した。組合員に対して理念を伝えるだけでなく、組合活動に共感してもらうことを重視した。

3 ラジオという新しい情報発信

(1) 日常に溶け込む情報発信を目指して

情報発信の手段として着目したのが「ラジオ」である。映像を見る必要がなく、通勤や家事など日常生活の中で気軽に聴けることから、組合との接点を自然に増やせると考えた。

(2) 双方向のコミュニケーション

ラジオでは活動報告だけではなく、組合員からのご便り、公務員としての仕事論、県本部との交流など幅広いテ

ーマを扱った。視聴者が参加できる番組づくりを意識し、一方的な情報発信にならないよう工夫した。

4 活動を通じて見えてきた変化

（１）組合が身近な存在へ

放送開始から８か月で多くのお便りが寄せられ、「組合を身近に感じるようになった」「自分の思いを代弁してもらえた」といった声が届くようになった。

（２）組合の枠を超えた広がり

視聴者は組合員だけでなく、住民や他自治体・他単組にも広がった。また、組合事務所再生プロジェクトなど実際の活動にも協力者が現れ、情報発信が新たな行動につながることを実感した。

5 住民から応援される組合を目指して

（１）組合の存在意義を見直す

組合は労働条件の改善だけではなく、住民の利益につながる活動を行うことで、社会から必要とされる存在になれるのではないかと考えた。

（２）住民のための活動が組合を強くする

住民から応援される組合になることで、組合員の誇りや参加意識が高まり、結果として当局との信頼関係や交渉力の向上にもつながると考える。本レポートで紹介したラジオは、その第一歩として位置付けている。

おわりに

本実践は、ラジオそのものが目的ではない。組合活動を身近にし、挑戦する文化を育み、最終的には「住民のために役立つ組合」を実現するための一つの手段である。組合が地域社会とのつながりを深めることで、組合員・職場・住民の三者にとって価値ある組織へ発展していくことを期待している。

第41回地方自治研究全国大会 レポート

挑戦する文化を 組合から広げたい

福岡県篠栗町職員労働組合
2026年6月作成



目次

1. 組合の現状
2. まずやったこと
3. ラジオの毎週配信
4. その後の反応
5. 目指す組合像
6. おわりに



自己紹介

篠栗町職員労働組合
執行委員長

田中 拓来
(たなか たく)

入庁13年目 DX担当 34歳

役員経験がほとんどない中で執行委員長になったため、周囲からのサポートにとっても助けられています。
組合に詳しくない分、前例にとらわれず柔軟な視点が持ちやすいことが強みです。





組合の加入離れ

組合加入率

2021年前 98% → 2025年 90%



役員のなり手不足

立候補無し → 前任からの指名

活動縮小

不満の集積

自治労を敬遠

役員手当減少

部会廃止提案

前例踏襲



面白くない！！

2. まずやったこと

挑戦する組合にするために
言葉ではなく
行動で示しました

定期大会での執行委員長就任あいさつ



ビジョンを伝えるショート動画配信

組合は可能性の宝庫です
若手職員みんなの才能がみっちりつまっています
管理職の決裁も要りません
ドンドン新しい挑戦ができる場です
挑戦する組合員が増えていけば
挑戦を応援する職場に生まれ変わります
組合が盛り上がれば
職場がそして町の未来が盛り上がる
そう信じています



「本気で変えたい」

執行委員長の想いを伝えることから始めました

3. ラジオの毎週配信

 篠栗町職労のyoutubeチャンネル



Vol. 19

「

異端になれ!

」

ラジオの配信内容

- 組合員からのお便り（人生相談）
- 組合の活動報告
- 県本部との交流情報
- 公務員としての仕事論



①組合員の声（ラジオの便利）

放送開始8か月で48通

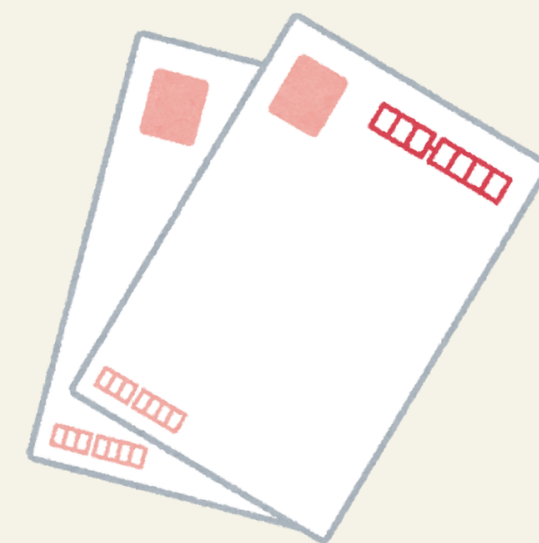
「YouTubeで同僚のラジオが聞けるのが不思議」

「今まで遠くに感じていた組合を身近に感じる」

「お便りによって自分の気持ちを代弁してもらえた」

「とにかくモテる方法を教えて欲しい」

「結婚する予定はないから育休を取る人を素直送り出せない自分にモヤモヤ」



②組合員以外からのおたより投稿

住民

「お二人の話を毎週楽しみに聴いています・・・（防災に備蓄品に関する質問）」

他単組の組合員

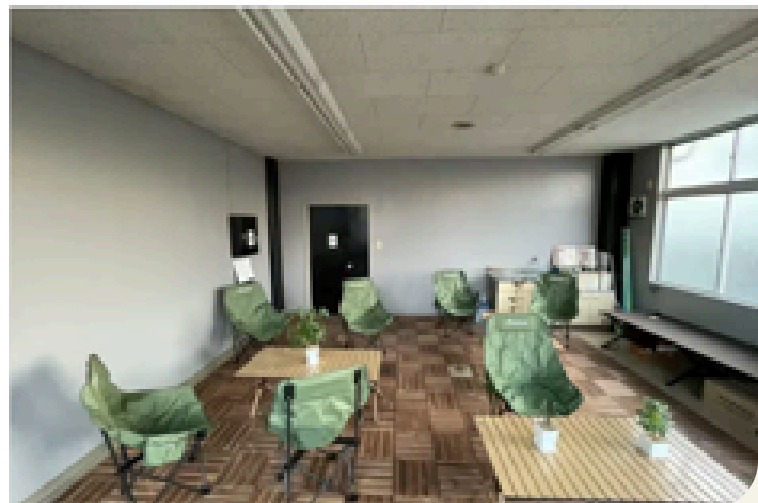
「中国地方の国立大学で事務員をしています・・・組合を前面に出しつつ辛気臭くない雰囲気ラジオがあることを知れて嬉しい。」

③組合員増加

就任8か月→4名増加

④組合事務所再生プロジェクトへの協力

04



住民 から喜んでもらえる組合

目指すのは
住民が喜んでくれることを
積極的にできる組合

住民から応援される組合になれば
当局からも「やることやっているな」と
組合の交渉力も上がります



住民のため。
その一歩が、組合を変える。

組合からともに
挑戦をはじめましょう

閲覧ありがとうございました

最後までご覧いただき、本当にありがとうございます。

私の組合活動はまだまだ一年足らずです。

これからもよりよい組合になるために活動将继续します。

そのためにも、全国の組合組織に皆様のご協力が不可欠です。

一緒に活動してくれる方、ぜひぜひご連絡をお待ちしております。



taku-tanaka@kuromachi.com



youtube 「篠栗町職労」 で検索



福岡県篠栗町職員労働組合 執行委員長 田中拓来

